

## 1. おおむね 20 年後の将来の人口見通し【豊田地域】

- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の将来を見据えた「都市計画に関する基本的な方針」を定める計画です。
- おおむね 20 年後の将来の人口見通しを把握するため、100m メッシュ別人口密度分布と将来の人口増減数の見通しを整理しました。

### ▼データの出典

2015 年	総務省統計局「平成 27 年国勢調査地域メッシュ統計」を基に作成
2040 年	国土交通省「国土数値情報[500m メッシュ別将来推計人口データ(H30 国政局推計)]」を基に作成 ※H30 国政局推計は、平成 27 年国勢調査を基準として、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」に準拠した推計データ

図 1-1：現状の 100m メッシュ別人口密度分布（平成 27 年国勢調査）

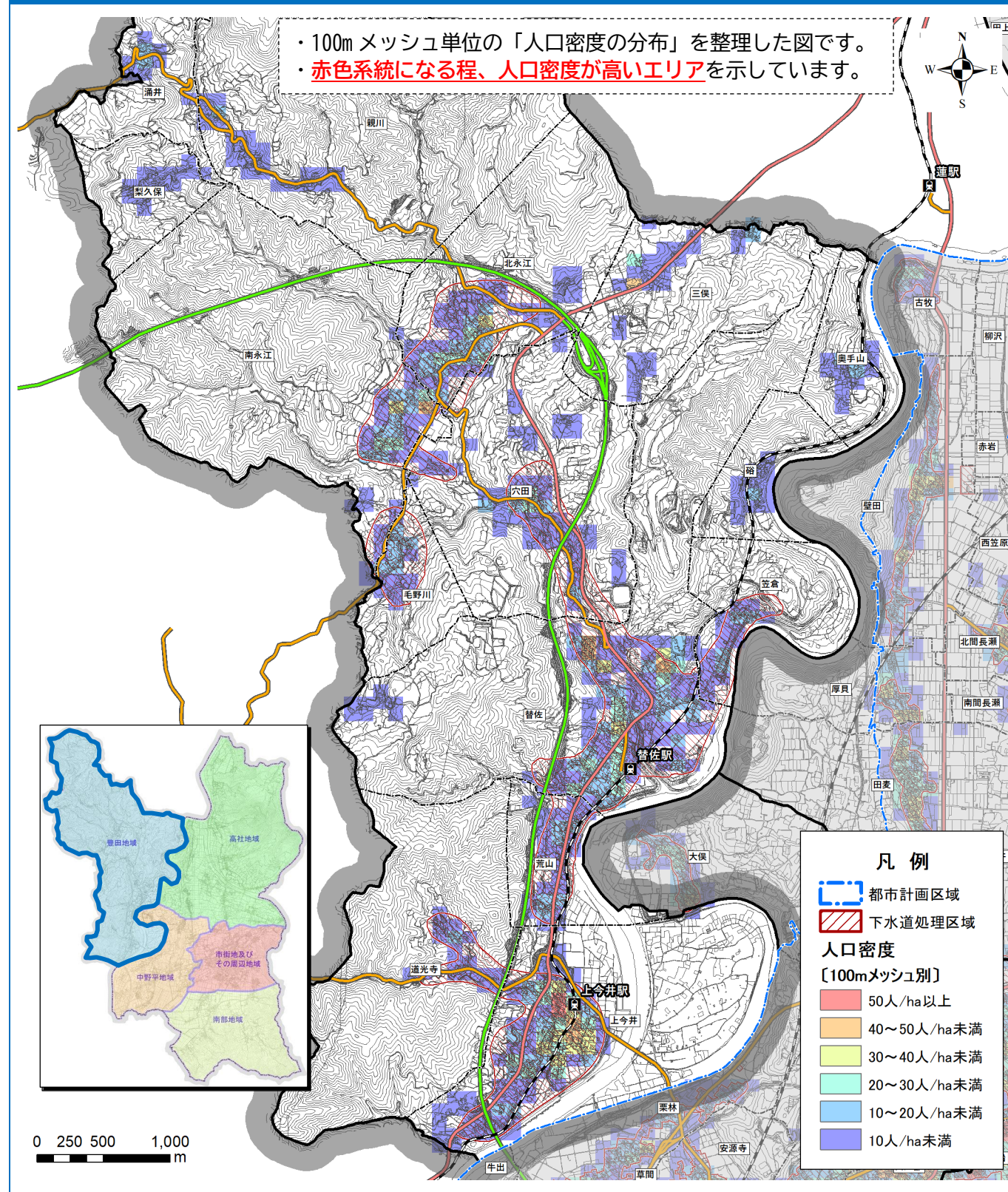
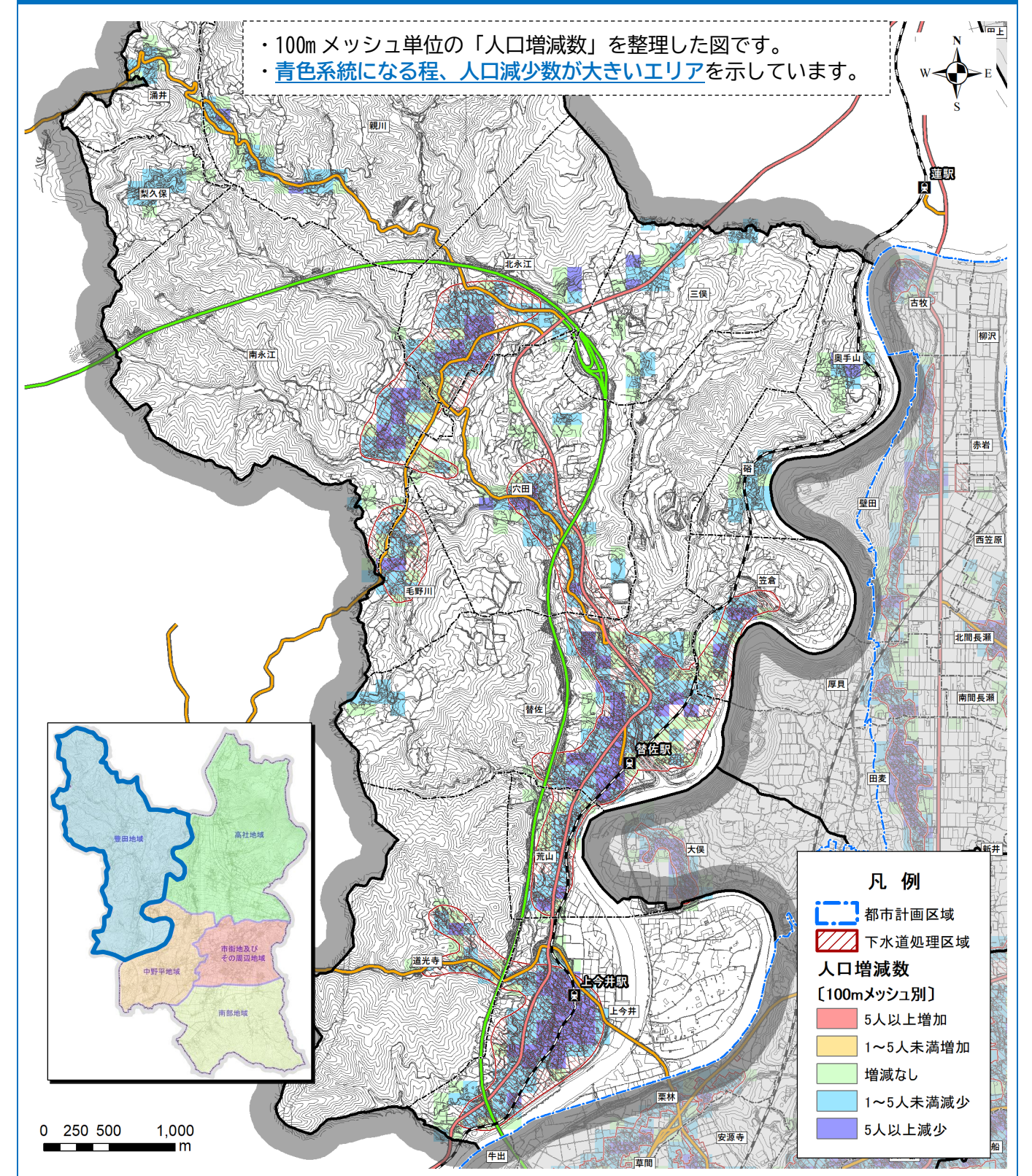


図 1-2：将来の人口増減数の見通し(社人研推計準拠)：2015 年(平成 27 年)～2040 年(令和 22 年)



## 2. 中野市まちづくりに関するアンケート調査結果の概要

### 〈アンケート調査の概要〉

【アンケート期間】令和3年9月【アンケート対象者】市内在住16歳以上3,000人  
 【アンケート回収状況】回収数1,247件（うち、豊田地区回答数：108件）、回収率41.6%

### 2-1 「住みやすさ」についての満足度と重要度

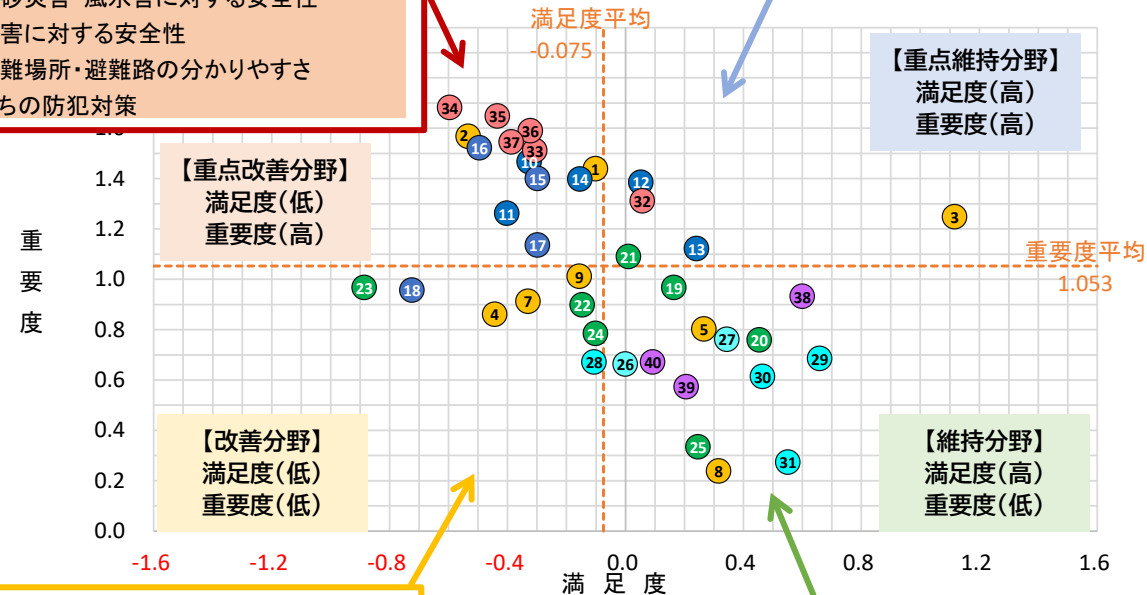
○豊田地域では、日照や静かさのある環境や広域(市外)への行きやすさ等が評価されています。一方で、高齢者・障がい者の生活しやすさ、道路整備、安全・安心(=防災や防犯)等については改善が必要といえます。

#### 特に改善が必要な施策(14)

- 1.子ども・子育て世代の生活のしやすさ
- 2.高齢者・障がい者の生活のしやすさ
- 6.近所での買い物の便利さ
- 10.歩行者に対する安全性
- 11.道路の通行のしやすさ(自転車・バイク)
- 14.通勤・通学のしやすさ
- 15.買い物への行きやすさ
- 16.医療・福祉施設などへの行きやすさ
- 17.鉄道の利用しやすさ
- 33.地震災害に対する安全性
- 34.土砂災害・風水害に対する安全性
- 35.雪害に対する安全性
- 36.避難場所・避難路の分かりやすさ
- 37.まちの防犯対策

#### 着実に推進する施策(5)

- 3.日照や静かさのある環境
- 12.道路の通行のしやすさ(自動車)
- 13.広域(市外)への行きやすさ
- 21.河川や湖など水辺空間の環境保全
- 32.火災・延焼に対する安全性



#### 周知・改善が必要な施策(8)

- 4.空き家・空き店舗の少なさ
- 7.市内の中心部での買い物の便利さ
- 9.優良な農地の保全
- 18.バスの利用しやすさ
- 22.スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備
- 23.身近にある子どもの遊び場の整備
- 24.道路や公共施設の敷地の緑化
- 28.駅周辺や中心街の都市景観の美しさ

#### 維持及び認知度向上を図る施策(13)

- 5.近隣の建物の密集や老朽の程度
- 8.工業団地の整備・工場立地
- 19.森林など自然環境の保全
- 20.寺社の境内地などの森の保全
- 25.民間施設や工場の敷地の緑化
- 26.沿道や街並み、家並みの美しさ
- 27.水辺や眺望などの風景の美しさ
- 29.田園景観の美しさ
- 30.歴史的・文化的景観の保全状況
- 31.屋外広告物の規制
- 38.ご近所付き合いの機会
- 39.まちづくりへの市民参画の機会
- 40.まちづくりに関する情報提供

#### 〈施策分野の凡例〉

- 土地利用・居住環境
- 道路・交通
- 公園・緑地
- 景観
- 安全・安心
- 市民参加等

### 2-2 中野市の将来像について

「地震や大雨、大雪、火災などのあらゆる災害に強いまち(59.7%)」が最も高く、以下、「買い物しやすい、活気があふれる中心市街地をもつまち(51.5%)」、「生活道路や公園などが充実した、住みやすいまち(36.2%)」の順となっています。なお、若い世代では「買い物しやすい、活気があふれる中心市街地をもつまち」の回答割合が高い傾向があります。

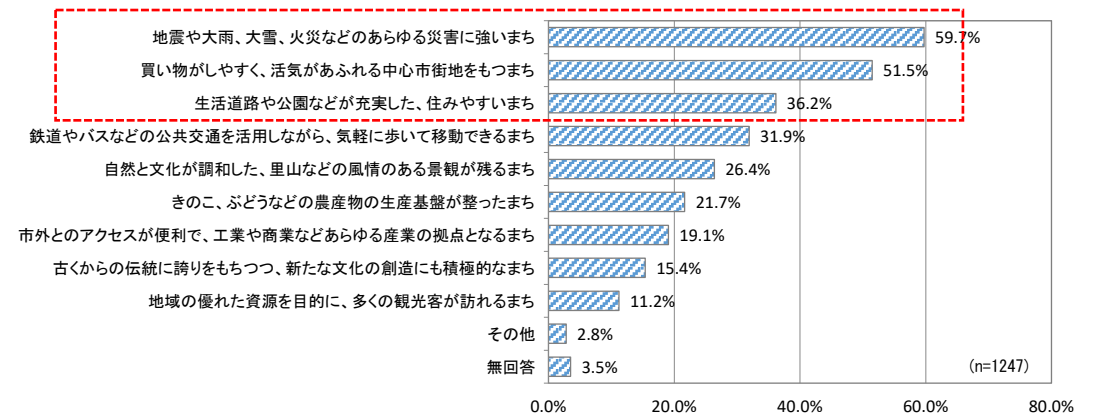


図 中野市の将来像(単数回答)

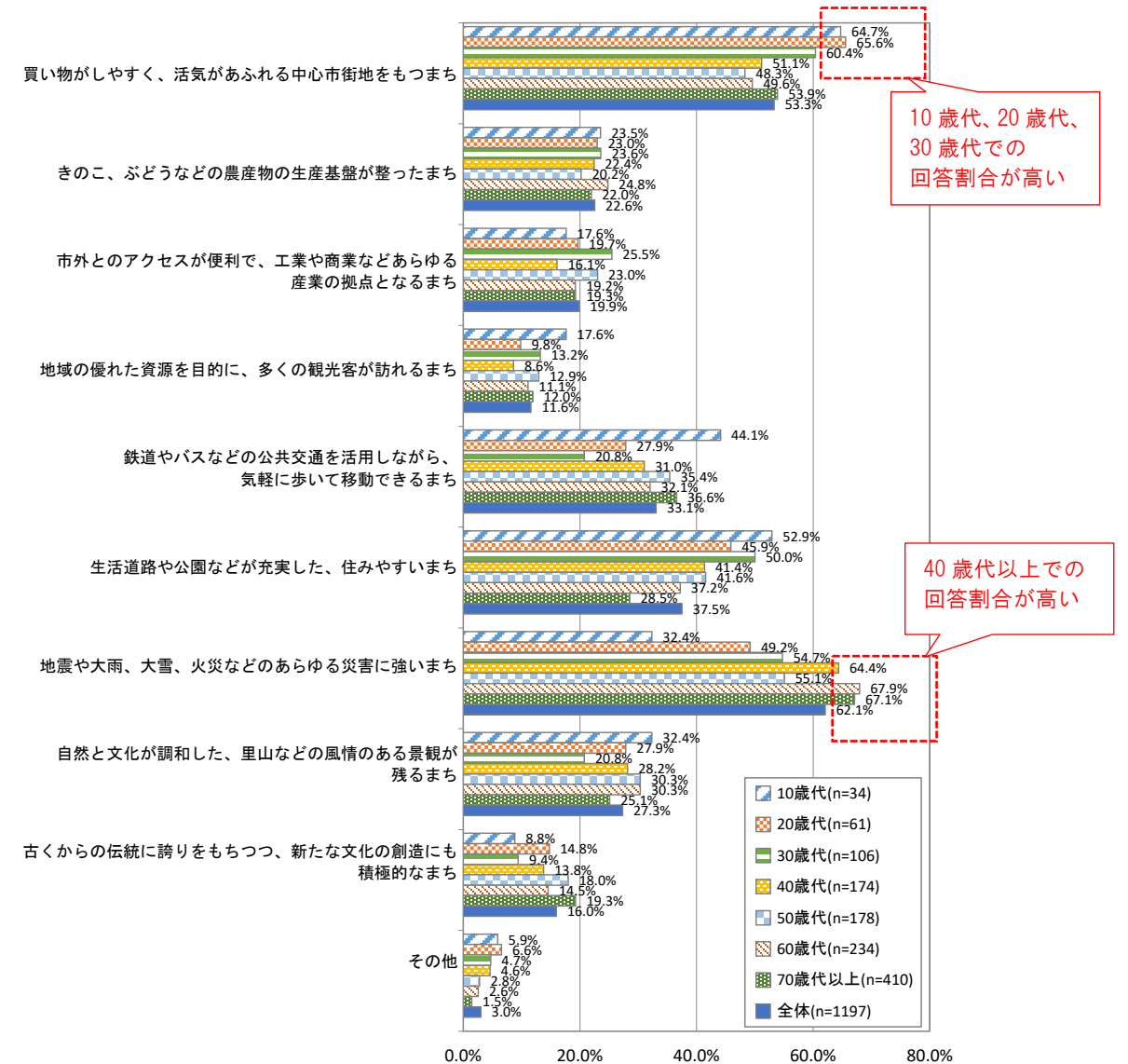


図 中野市の将来像(年代別クロス)

### 2-3 定住意向

豊田地域では「現在の居住地に住み続けたい」の回答割合は 69.2%となっています。また、「県内の近隣市町村に転居したい」の割合が全地域の中でもっとも高くなっています。

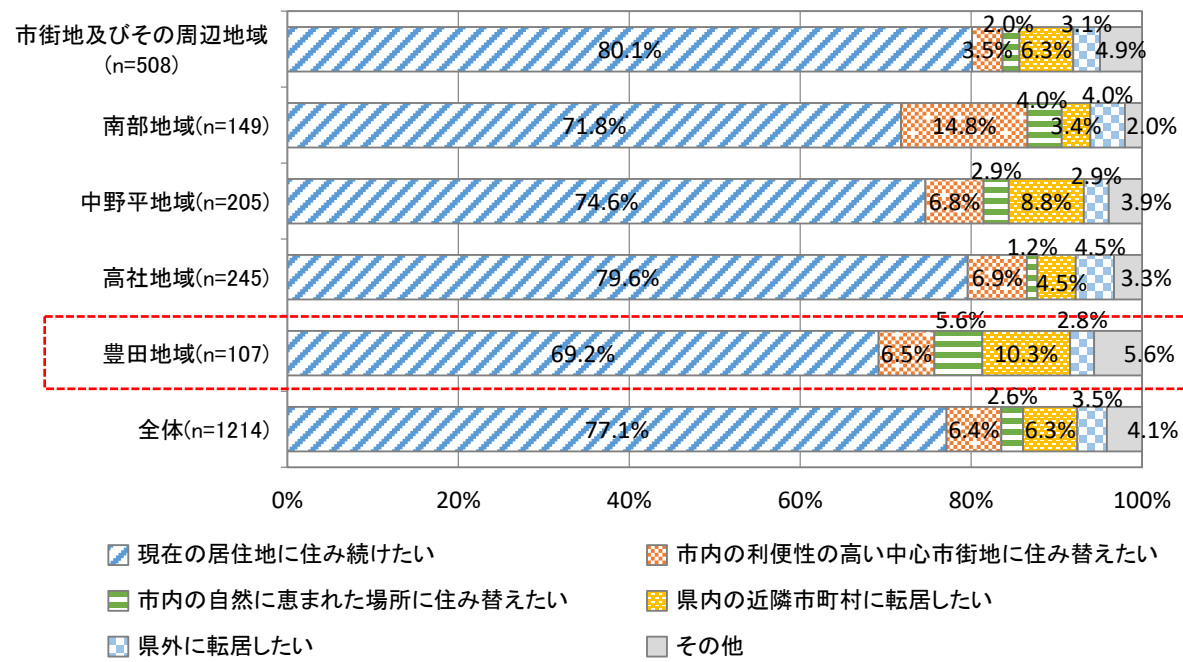


図 定住意向 (地域クロス)

### 2-4 外出する際に最も利用する交通手段

全体としては、8割以上が自家用車となっています。豊田地域は「路線バス」の回答割合が全地域で最も高くなっています。

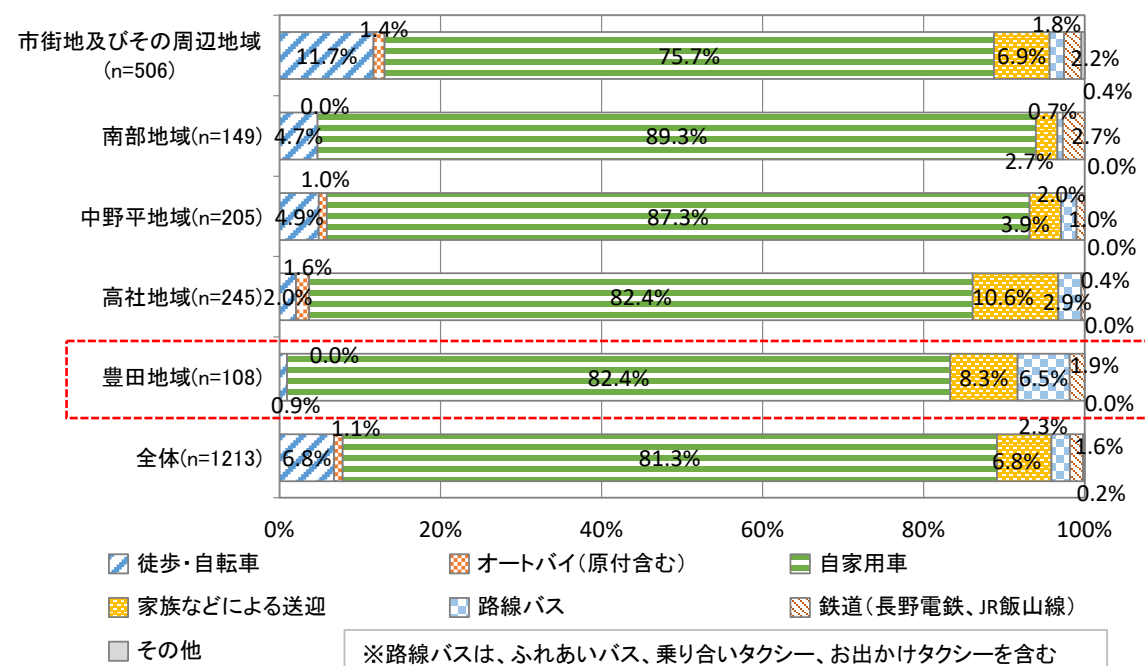


図 最も利用する交通手段 (地域クロス)

### 2-5 中心市街地で維持・充実すべき施設

中心市街地(信州中野駅周辺)で維持・充実すべき施設として、「総合的な医療サービスを受けることができる病院(64.7%)」、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(60.1%)」の割合が特に高く、市民生活を支える基幹的な機能の適正な配置が求められています。

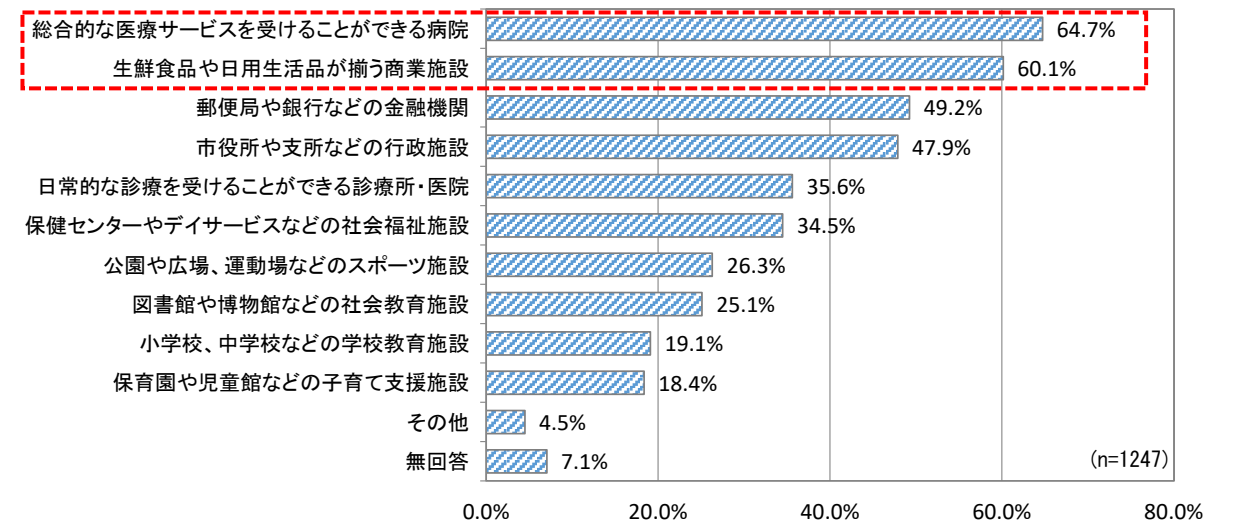


図 中心市街地で維持・充実すべき施設 (5つまで回答)

### 2-6 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべきだと思ふ施設

国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設として、「生鮮食品や日用品が揃う商業施設(71.8%)」の割合が特に高く、次いで「公園や広場、運動場などのスポーツ施設(42.3%)」、「郵便局や銀行などの金融機関(40.3%)」の割合が高くなっており、自家用車での利便性が高い施設の立地が求められています。

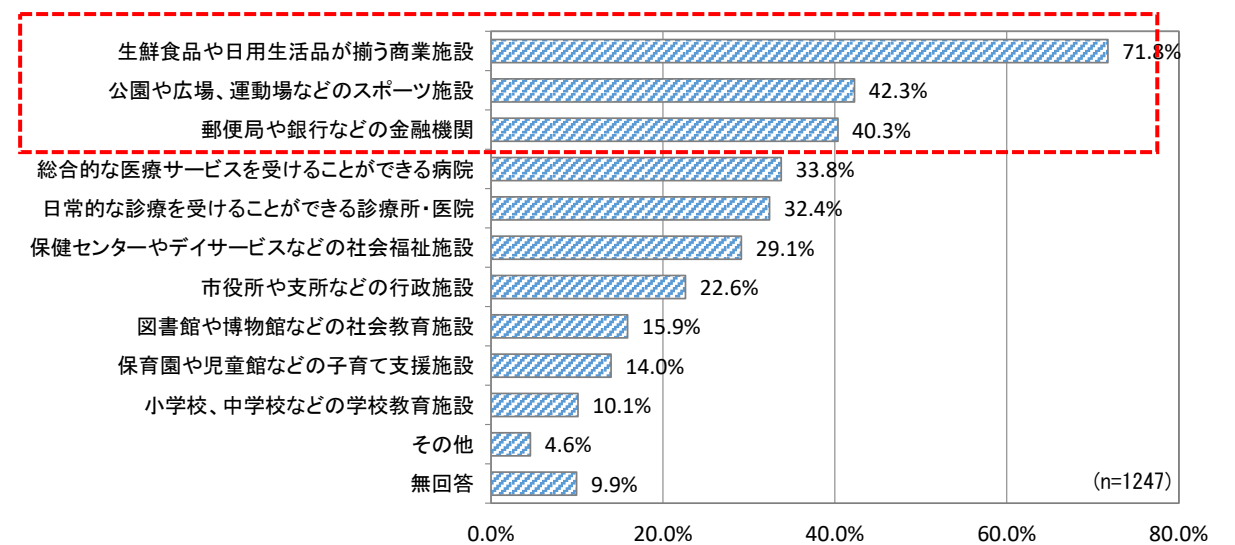


図 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設 (5つまで回答)

## 2-7 防災・減災対策として、重視すべき取り組み

### (1) ハザードマップの認知度

「ハザードマップを見て、自宅付近の災害危険性を確認している」の割合が最も高くなっており、豊田地域では市全体の水準を上回っています。

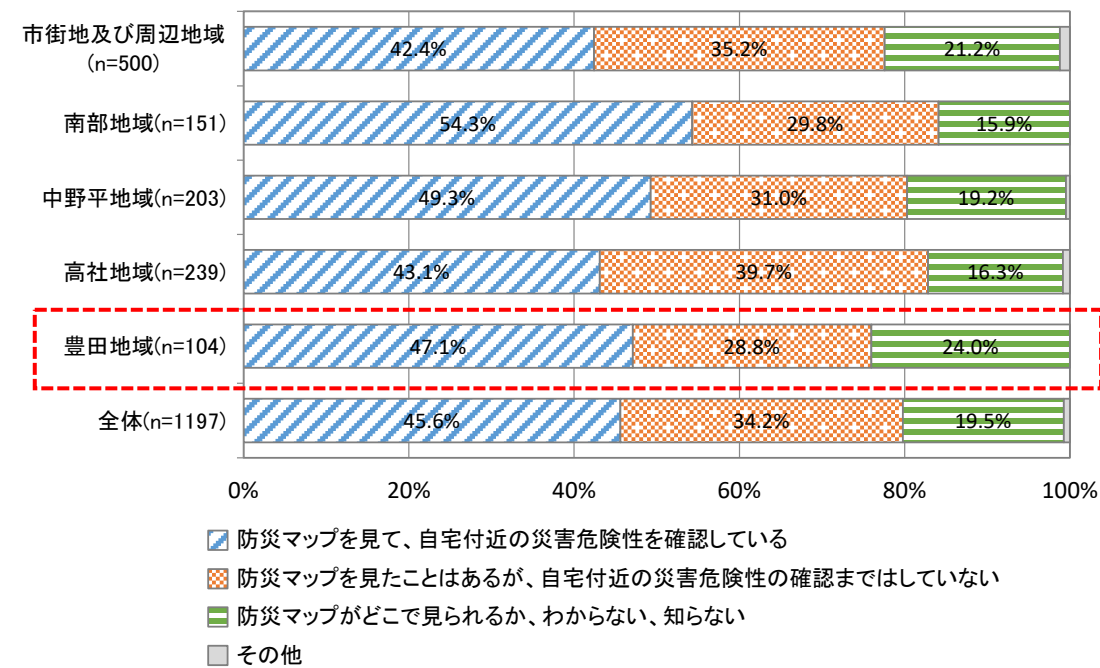


図 ハザードマップの認知度（単数回答）

### (2) ハード対策

ハード対策として、特に「主要河川や水路における河川改修などの氾濫対策(65.0%)」を重視している傾向があります。

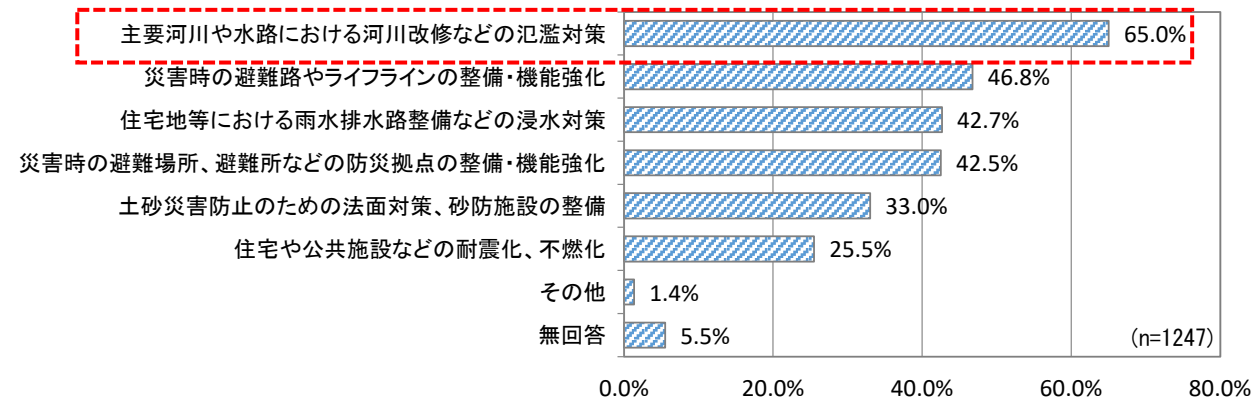


図 防災・減災に向けたハード対策（3つまで回答）

### (3) ソフト対策

ソフト対策として、特に「自力で避難することが困難な人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり(76.5%)」、「防災行政無線や緊急メールなどの情報伝達手段を活用した、迅速かつ正確な情報発信(70.6%)」を重視している傾向があります。

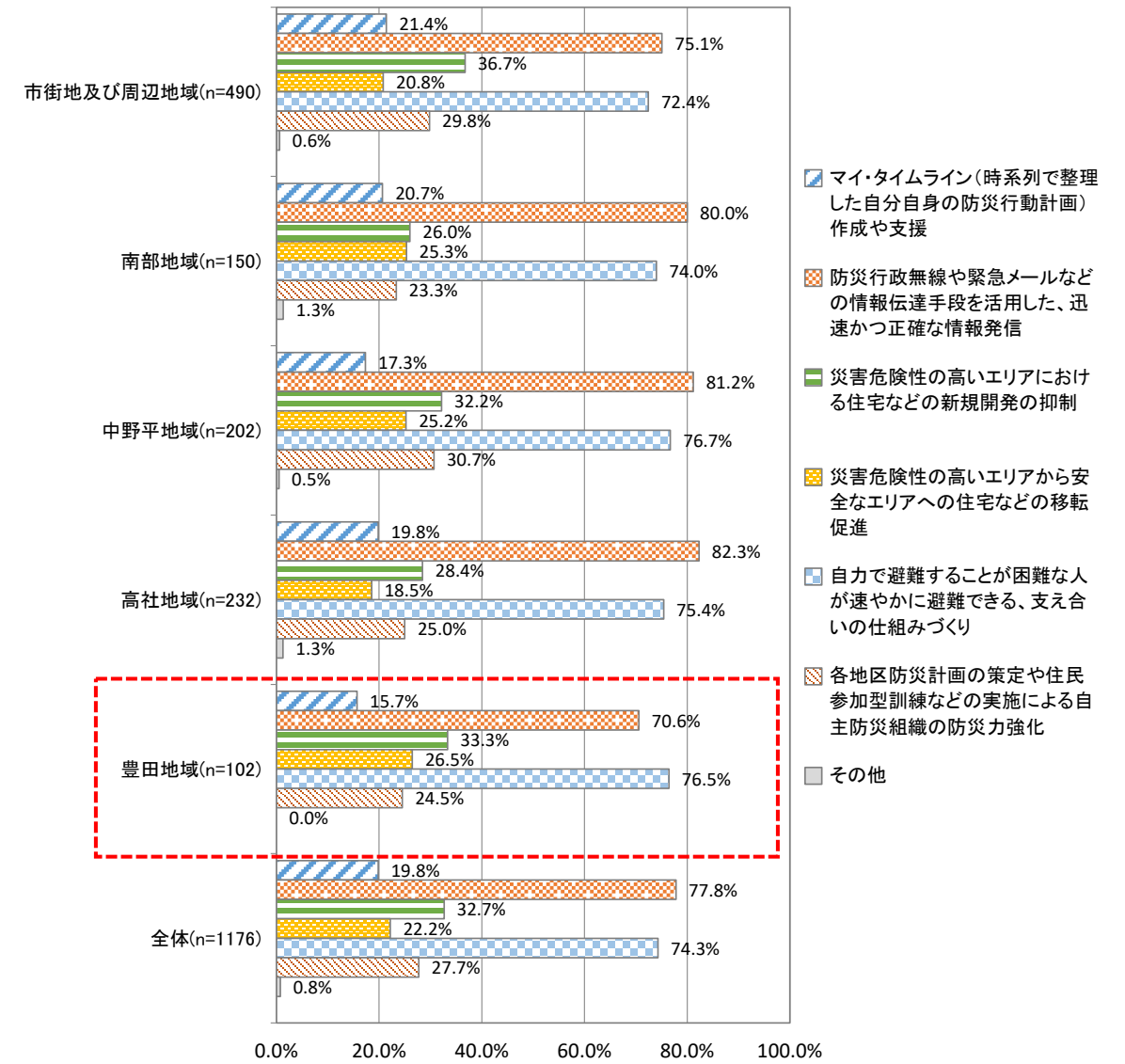


図 防災・減災に向けたソフト対策（3つまで回答）

### 3. 参考：現行計画における地域別構想の内容【豊田地域】

- 参考として、現行の中野市都市計画マスタープラン(平成 21 年 3 月策定)における地域別構想で位置づけられた「4つの分野別の整備方針」及び「構想図」を整理しました。
- 今後、上位関連計画の方針と整合・調整を図りながら、整備方針の見直し案を作成する予定です。



現行計画	地域の目標	斑尾山の裾野に位置する“ふるさと”の原風景を継承するまちづくり
	地域の基本方針	斑尾高原の豊かな自然の保全・活用に努めるとともに、唱歌“故郷”に歌われる里山集落の風情・景観を継承することをめざします。

#### (1) 土地利用の方針

【現行計画】整備方針	
1	豊かな自然環境の保全と適正な土地利用の誘導による市域の一体化を図るため、都市計画区域の拡大を検討します。
2	農地の保全を図り、無秩序な開発を抑制します。
3	豊田飯山インター周辺については、北信州の人的、経済的な玄関口として、適正な土地利用を促進します。

#### (2) 道路、交通体系の方針

【現行計画】整備方針	
1	中野地域と豊田地域をつなぐ県道豊田中野線及び県道三水中野線の整備を促進します。
2	国道 117 号バイパスの整備を促進します。
3	県道飯山妙高高原線の親川バイパスを検討しつつ整備を促進します。
4	除雪等、冬期間の交通安全対策に努めます。
5	歩道未整備区間の整備を行い歩行者の安全確保に努めます。
6	公共交通の見直し検討を行い、利用促進、運行の維持に努めます。

#### (3) 環境保全・景観形成の方針

【現行計画】整備方針	
1	沿道の適正な土地利用を推進し、農村の景観保全に努めます。
2	優良農地の保全と有効利用を推進し、農村交流を促進します。

#### (4) 都市防災の方針

【現行計画】整備方針	
1	千曲川や斑尾川等の水辺、里山の自然を保全しつつ、堤防の整備を促進します。
2	急傾斜地の崩落防止など治山・治水対策を促進します。
3	建築物の耐震化及び不燃化を促進し、集落内における住宅密集地での災害の防止に努めます。

#### 【現行計画】豊田地域の構想図

